

量子波動 LABO アルケミスト
(アジャックス AWG 資料)

奇跡を起こす 「波動医学」

“量子力学”が切り開く未来医療革命

船瀬俊介

ついに「**神の周波数**」をとらえた!

科学、宗教、歴史……
すべてを粉碎した
量子力学による
「**波動革命**」、
その現在地を見よ!

現代科学・医学を
根底からくつがえす量子力学、
その**驚異的成果**

●“ヒモ理論”ノーベル賞受賞で、すべてがひっくり返る ●複雑骨折の猫が走り回る「波動」の奇跡 ●劣等生が超秀才に、90代のシミが完全消滅…… ●テレポーテーションと遠隔治療は実現している ●「ソマチッド」「水の記憶」「菌体」「靈魂」……生命の神秘を波動で解き明かす
共栄書房

第1章 離れていても驚愕の治療効果！ 遠隔“AWG”

——1+1できぬ子が超秀才に！ 九〇歳、老人斑も消えた

全摘された乳房が再生！ 「波動」治療の奇跡

●九〇歳、斑点、シミも消えた

「……これを見てください」

整体師の山田秀樹さん（仮名、五六歳）は、一枚の写真を示した。

老人の手を写した二枚の写真。

「……“AWG”治療機で施術した九〇歳男性です。一枚目（写真1-1）は老人斑やシミが多い。それが、半年後には、老人斑、シミが消え若々しい肌になっています（写真1-2）」

本当に見ちがえる。半年で斑点やシミが消えている！

肌は第二の臓器と言われる。体内の浄化具合が、はつきり現れる。

それだけ、“AWG”治療で代謝が活性化され、体内の毒素（体毒）が排出されたのだろう。

■施術半年後、全て消えて若々しい ■施術前、シミ、老人斑が目立つ



写真 1-2



写真 1-1

つまり、身体の内外とも若返ったのだ。

九〇代の老人まで、たった半年でこれほど若返らせる治療機を、ほかに知らない。

「……“AWG”で手がきれいになったのは、実は義理の父なんです」と山田さん。

一時期、体調がとても悪かった、という。

“AWG”「波動器」「波動水」を用いるようになり、いたって元気という。

“AWG”装置で寝てもらおう。自分で創った「波動水」を飲む。お風呂にも活用。そうしたら、半年で手がしつとりきれいになった。

さらに「頭髪の白髪が目立つようになっていたが、AWG治療後、黒くなった……」

●ガン手術跡に乳房が再生

“AWG”波動治療機とはいったい、どんなものだろう？

わたしは二〇一七年に刊行した『未来を救う「波動医学」』（共栄書房）で“AWG”のルーツについて、触れている。

「……この波動治療機が、対象とする疾病は——乳ガン、肝ガン、肺ガン、胃ガン、大腸ガン、重度筋無力症、白血病、脳梗塞、心臓病、関節リウマチ、くる病、腰痛、神経痛、さらには水虫までも、適応症にあげられている」（同書）
それだけではない。

「——東海地方のある市民病院で、奇跡のような乳房再生が始まっている——。それは、同病院で乳房全摘手術を受けた四八歳の主婦（ミチコさん）の、えぐり取られた胸部から、新たな乳房が生まれてきた、という」（同）

●波動エネルギーで活性化

その乳房再生の一部始終を目撃したのは、“AWG”を施術した高橋佐智子氏（六二歳、当時）。気功師でもある彼女は、“AWG”の原理を次のように説明している。

「……素粒子の波動束を発生させて、人体の深部を『波動』のエネルギーで満たすのです。この器具の波動でミチコさんの胸に変化が現れた」

彼女は、“AWG”の原理は気功に似ている、という。

「……“気”の注入は、気功師の身体が大気中から取り入れ、蓄積して発する『波動』エネルギー

ギーです。それが「経穴」や「経絡」を刺激し、相手の全身を活性化するのです。人はだれでも、元気を人からもらったり、他人にあげたりしています。「気」はだれもが日々体験する生命のパワーなのです」（高橋氏）
なるほど――。

「……ところが、この「AWG」は、人から人への注入ではなく、人工的にプログラミングさせた波動を、段階的に発生させ、集めて人体の深部に働きかけるのです」（同）

弾圧を生き延び、進化する「AWG」療法

●警官が急襲、懲役一年六か月

「AWG」の概要は、発明の中心人物、松浦優之博士が米特許申請書類を残している。

そこには「――疾病の種類ごとに、関与する細胞、筋肉系統、血管およびリンパ系統が異なる。これら細胞に対応して、特定周波数を疾病種類ごとに選択し、組み合わせると、極めて良好な治療結果が得られる」とある。

実際には約四三〇種類の疾病名に応じた特定の「コード番号」にダイヤルを合わせて治療する。

「AWG」は一時期、医学界を支配する悪魔勢力による弾圧という憂き目にもあっている。

「……一九九八年、ある日の朝、警察官二〇人が松浦博士宅の玄関前に殺到。令状を突き付けた。

『薬事法違反で逮捕する』『証拠物を強制押収する』。一切合切の研究資料は押収され、松浦博士の手には冷たい手錠がかけられた。裁判で懲役一年六か月、罰金二〇〇万円が求刑された。松浦氏は最高裁まで争ったが、執行猶予付きで刑が確定した（『未来を救う「波動医学」』前出）
血が凍る……とは、このことだ。医療マフィアの悪魔勢力は、ここまでやるのだ。

●厚労省「治療機器」と認可

無法な警察による弾圧から二五年が過ぎた。

画期的な「波動」治療機「AWG」は、生き延びた。

松浦博士の意志を継ぐ関係者たちは治療機の改良を重ね、さらなる性能向上を達成している。

“AWG”波動装置は本体と子機がある。

最大八個の端末パッチを体表面に貼って、個別「波動」を体内に送り込む。

「モード一覧」「コード表」各々に数字が記載されている。

それら数字は「老人性痴ほう症」「知能向上」「耳全般」「アシドーシス（酸血症）」「免疫向上」「トラウマ」などに対応している。その数字を入力し、施術する。

まさに、「痛みなし、手術なし、注射なし、投薬なし——『素粒子の束』を照射するだけ」

（『AWGは魔術か、医術か？』俊成正樹著、五月書房）。

“AWG”をかつては二〇人の警官で襲撃した国家権力も、そのめざましい効能を認めざるを得

なくなつた。これを圧殺すれば、“AWG”で救われた人々が立ち上がることは必至だ。かくして、厚労省は“AWG”を公式に「治療機器」として認定している。時代の流れを感じざるをえない。

一一年間、福島原発の被災者を救い続ける

●“レッドカード”を“緑”に

冒頭に登場した整体師、山田氏――。

彼が“AWG”の驚異的な効果に目覚めたのは、3・11東日本大震災からだ、という。

「……“AWG”機器には放射能を調べる装置もあります（“ライフエネルギー・ジー・コンパス”等）。それで測ると放射能が判る。どれだけ被曝してるか？ それで、機械を借りて仙台に行つた。そこで、じつさいに測つたら“レッドカード”です。皆、被曝してる。『これはマズい』。“AWG”本体には『裏コード』があります。そこには『放射能除去』の項目がある。それで、“レッドカード”の人達にかけまくつた。“グリーン”なら正常。こうして、“レッドカード”を“グリーン”に変えることを一一年間やってきました」（山田氏）

●八人中六人に奇形児！

彼は、そのため二四〇万円の大枚をはたいて、「AWG」「波動器」を購入した。

とにかく現地の放射能が凄い。震災から三年後、彼の整体院に来た女性は証言した。

友達が現地の産婦人科で出産した、という。なんと、八人中六人が奇形児だった。

その友達の赤ちゃんも指が六本あった。「……それはマズいなあ」。彼は現地に向かった。

調べてみると、なぜか鼻血を出す人が多い。とくに、子どもたちに多い。

「……」AWGで測ると、外で部活している子どもたちなどが、すぐに鼻血を出す。測定すると、関東の埼玉、千葉でも多かった（同）

「AWG」で「放射能」項目に数値を合わせて施術する。

「……すると、イエロー・カード」とか、レッド・カード」が反応して出ます。子どものほうがヤバイですね。そこで、「AWG」で「放射能対策」の「波動」をかけるが、なかなか「危険反応」がとれない」（同）

体内に放射能がとどまっているのだ。それで「AWG」をかけると、鼻血が二日間止まらないケースも。ところが鼻血が出たあともう一度測ったら、反応が「グリーン」になっていた。

鼻血は排毒だった。自分の体を守る一種の防衛反応だったのだ。

「……ジビエで鹿肉をもらって食べた人がいます。二日間、鼻血が出続けた。だから、助かったといえる。鼻血で鹿肉からの放射能を排毒したのです。その後「AWG」測定したら放射能反応

は出ない。この人は鹿肉から相当、放射能をもらったのですね」（山田氏）

山田氏は、それら福島体験から「AWG」の実力に驚いた。色々な事態にも波動器は対策できる。日本復興のためにも「AWG」が少しでも役に立たないかと思っっているようだ。

落ちこぼれの子の成績が学年一位に大変身！

●1＋1計算も出来ない子が

小学三年生の時、1＋1の計算もできない子がいた。

「……幼少期から小学三年生まで、運動神経もビリだった。駆けっこしたら必ずドンペ。体の発達も悪かった。一〇〇点満点テストなら一〇〇〜一五点くらいのレベル。その子は、学校の先生にまでいじめられるようになった。それを嘆いてお母さんはノイローゼになった」

そこで、おじいさんが心配してAWG本体を購入し、「ノイローゼ」のコード番号を入力して娘（お母さん）にかけたら、みるみる改善した。「これは使える！」と思い1＋1の計算もできない子供にAWGをかけたら、なんと成績が学校で学年一位になった！ 運動会では二位に！ その子はどんどん変わっていった。おじいさん曰く「中身が入れ替わったのか……」と。

AWG「波動」で、脳内のスイッチがパチツと入ったのだろう。

山田氏も、この事実におおいに触発され、勇気づけられた。

彼自身も小学校四年生の子の成績と運動神経のレベルアップに成功している。

●大手塾模試で二年連続一位!

その結果は……?

山田氏は、晴れやかな笑顔で語る。信じられない! それは、母親も同じ思いだろう。

山田氏は母親から頼まれて、九月にその子に施術二回。整体と「AWG」の「トラウマ除去」「解毒」「知能向上」をパッドで額、首、腰、背骨に貼って「波動」を流した。

まず、九月、施術直後の変化が凄い。十月、運動会の駆けっこで一位に。一か月でこの激変。いつものピリが一位になったので、まわりもビックリした。

「……証拠写真もありますよ。半年後に大手塾の選抜模試があった。この子が受けたら、偏差値が平均七四以上! トップクラスになった」(山田氏)

じっさいに「成績表」や運動会の写真などの「証拠」も見せていただいた。

お母さんはその後もこの子にAWGをかけ続けるため山田氏のもとに通った。

一年後、同様試験を受けたら、平均偏差値八二を叩き出した。ただスゴイ! というほかない。

「……両方とも、模試受験者の中では前回ともに一位を獲得。AWGで勉強のやる気スイッチが入ったんですね。ただし、スイッチを入れてもやはり本人が努力しなければ良い結果は残せないでしょうね」(山田氏)

●斜視の赤ちゃんも見事に完治

“AWG”は、赤ちゃんの先天異常にも、驚くべき効果を発揮する。

生後一か月半後の赤ちゃんは左目が斜視だった。

両親は“AWG”機を持っていたため施術を施した。「Gマット」に一日三〜六時間、特定コードの「波動」を照射した。

二日目には、もう明らかに改善し、ほぼ目の違和感はなくなっていた。驚くべき即効性だった。

……その後も、“AWG”治療を継続すると、一か月後には、斜視は完全に正常になった。

そして、その後一年一か月经った今でも、再発等なく、目は正常。完治している状態だ。

「……“AWG”の凄さは知っていましたが、赤ちゃんにはこんなに即効性があるのだと驚きました」(母)

これらの治療経過をみると、“AWG”には身体の「波動」情報を正常化する働きがあることが、よくわかる。

先天的な斜視も、まさに体内情報の「乱れ」から発生したのだろう。

“AWG”で体内の生命波動を正常化すれば、歪んだ斜視も正常にもどるのは当然だろう。

重体の八〇歳、“AWG”で生き返った！

●多臓器不全で危篤の宣告を受ける

八〇歳過ぎの女性――。

入院先で多臓器不全を宣告された。

血糖値600mgを超え、血圧がどんどん低下。

インスリンや昇圧剤の点滴をマックスで入れたが、血圧の上昇が、60〜70mmHg以上にはならず、少量の血尿しか出ない状態（無尿）となった。

体中が浮腫み、足もパンパンに2倍ほどに腫れ上がった。

主治医に、「透析もできない。やれることは全てやりました。残念ですが、もう何も出来ることはありません。会わせたい人がいたら呼んでください」と伝えられた。

この家族には2名の看護師がいたが、2名とも「もうお別れだろう」と覚悟する状態だった。何もすることが出来ないのならと、家族は医師に「家にある治療器みたいなものを持ってきて使ってもいいですか？」とお願ひし、許可を得ることが出来た。

個室にいたことが幸いしたのかもしれない。

すでに意識不明、昏睡状態であったため、体に直接パッドを八枚貼り、本人の反応がないの

で、最強の強さでスタートした。

●みるみる間に回復！

たくさんあるコードの中で、どれがこの病状にヒットするのかわからなかったので、家族は直感を与えてほしい！と祈りながら、コード番号を選んだという。

すると、不思議なことに、機械をかけてから数時間後より尿が出始めた。

少しずつ、尿パツクに溜まりだしたのだ。

しかも驚くことに、血尿から、普通の黄色の尿に変わっていった！そして、その頃より血圧も徐々に上がりだした。

「あと半日くらいいしかもたないだろう」という状態から様態が安定しだし、最後の挨拶を終えた親族たちも家に帰って行った。

そして四日目には意識を取り戻し、こちらの受け答えにうなづくようになった。

医師は首を傾けた。その頃より、処置の邪魔になるということで、機械を外した。

二週間後には経鼻栄養の管が抜かれ、少しずつではあるが、口から食べられるようになった。

要介護5の認定を受けていたので、自宅に戻っての介護は難しいと思ひ、家から近い介護施設に転院することとなった。しかし、ちょうどその頃、介護施設にコロナ患者が出たため、一時的に自宅でみるることとなった。その間にも、みるみる回復してきたので、そのまま在宅介護となった。

■ドロドロ血液は万病の原因 ⇨ “AWG” でサラサラ血液に

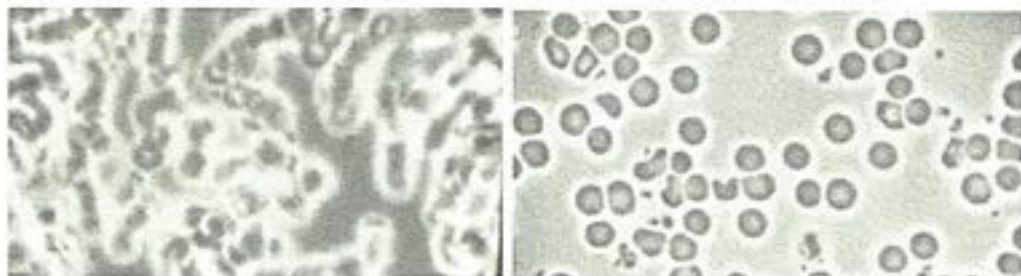


写真 1-3

(「遠隔」治療でもこの結果！)

あれから三年。今では杖を突きながら、自力で歩くことが出来る。頭もすっかりとしていて、ゆつくりだが家事もできるほど回復している。もし、この機械がなかったら、医者宣告どおり、多臓器不全で亡くなっていたのかもしれない。

●ドロドロの血がサラサラに！

整体師の山田さんも、その経過に驚く。

「……そしたら、おばあちゃん、生き返っちゃった。意識も戻った」
その仕組みをこう話す。

「“AWG” をかけると、ドロドロの血液がサラサラ血になります。写真1-3左が多臓器不全のおばあちゃんの血液だとすると、赤血球が互にくっついていて（連鎖結合・ルロー）。このドロドロの血液が内臓の血管につまって多臓器不全を引き起こしたのです。」

ところが“AWG” をかけたら、ドロドロの血液がサラサラになった
(写真1-3右)。

三日間“AWG” をかけ続けた結果、サラサラ血が二四時間全身を回り、危篤状態から意識を戻したのではないかと分析する。

地球の裏側でも……「遠隔」治療の驚異

●「量子力学」が実証した神秘

昔から気功師は、遠隔治療を行ってきた。いわゆる遠隔気功である。

「ペテンだ」「嘘だ」「ありえない」と、なじる研究者もまた多い。

それも無理はない。従来の古典科学では、説明できないからだ。

遠隔治療を理解するには、「量子力学」の知識が必要だ。

二〇二二年、ノーベル物理学賞が三人の学者に授けられた。彼らは「量子力学」の専門学者たちだった。授与の理由は「量子もつれ」の研究成果に対してだ。

「量子もつれ」とは別名「量子“ヒモ理論”」とよばれる。

これまでアインシュタインまでの物理学では、物質の最小単位は陽子、中性子とされていた。ところが、科学の進歩は、それより最小単位の“粒子”が存在することをつきとめた。

それが、量子である。それらはニュートリノ、クォークなど複数発見されている。

●テレポーテーション原理

これら量子の「振る舞い」は、従来の常識を越えたものだった。

その特徴は、①「量子もつれ」、②「重ね合わせ」、③「テレポーテーション」(瞬間移動)。

①「量子もつれ」..対の量子は、一方が変化すると同時に他方も変化する。

あたかも「ヒモ」で結ばれているかのようだ。それは、1m離れても、一億光年離れても、同時に起こる。ここにおいて時空の概念は崩壊する。

②「重ね合わせ」..量子は空間のA、B、Cなどに同時存在する。

③「テレポーテーション」..量子波は時空を越えて瞬間移動する。

解明されたこれら不可思議な現象は、実在する。

それを立証した功績により、三人の物理学者は、ノーベル賞を授与されたのだ。

「テレポーテーション」で、生体情報(量子波)は一億光年でも瞬時に飛ぶ。

だから、気功師が送る「気」(量子波)が地球の裏側まで届くのは、あたりまえなのだ。

このように「量子力学」は、これまで謎とされた遠隔治療のメカニズムを鮮やかに解明している。

遠隔治療の面白いところは、「写真」「氏名」「生年月日」など、本人を特定する情報を「波動」装置に入力すると、地球の裏側にいても、量子波は、本人を「特定」して届くことだ。

これはまさに、量子波の“引き寄せ”効果だろう。不可思議というほかない。

「遠隔」“AWG”一五分で血液サラサラに

●立ち会った女医も驚嘆絶句

現役の医師ほど、遠隔治療を認めない。無理もない。医学教育では習っていない。さらに、メディアでも絶対に流されないからだ。

だから、ほとんどの医者は“遠隔治療”と聞くとせせら笑う。

冷やかなケイベツの目付きすら浮かべている。

整体師の山田氏から、衝撃的な映像を見せてもらった。

ある病院で行った“AWG”遠隔治療の記録映像だ。

ある患者に、患者には知らせずに遠隔療法を施した。氏名など患者の特定情報を装置に入力して、遠隔照射を行った。むろん、「波動」装置は、いつさい患者には触れていない。

患者の血液は酸性体質だったため赤血球に連鎖結合（ルロー）が顕著だった（32ページ写真1-3左）。

ところが“AWG”照射後、わずか一五分。互にくつつき合っていた赤血球は、見事にバラけている。ドロドロの病気体質の血液が、たった一五分の遠隔“AWG”照射で、サラサラの健

康血液に激変したのだ(写真1-3右)。

動画には、驚愕、絶句する女医の声も記録されている。

「……遠隔ですよ。こんなに変化するんですね」

●「遠隔」で前立腺ガンが消失

「……『遠隔』で一切、患者に触らないで前立腺ガンが治った、という事例もいっぱいあります」(山田氏)

私も山田氏から遠隔治療を受けてみた。「船瀬俊介」という名前を書いて「センサー」に挟むだけ。それで、離れていても、「AWG」が本人を検知して「波動」を送ってくる。

不思議といえば不思議としかいいようがない。

これこそ、「量子力学」のいう「ヒモ理論」と「テレポーテーション」なのだろう。

この遠隔治療は「AWG」「本体」「子機」どちらもできる。

この「AWG」の遠隔機能を発見したのが山田氏自身なのだ。

「……それまでは、パッドを貼って波動をかけていた。しかし、遠隔でも全く同じ効果が得られたのです。この成果をお伝えしたところ北海道で、じっさいに試した方がいます。ご主人に前立腺ガンが見つかった。奥さんはご主人の名前と生年月日、「前立腺ガンが治りました」と完了形で書いた御札、パスポートの写真も添えて、センサーに挟んだ。そうして遠隔治療で「AWG」

を二四時間、がんばって二週間続けてかけた。そして一か月半後、ドクターが『もう一回検査して、今後の治療法を検討しましょう』と、検査をした。すると、なんとガンがどこにもなかった……！』(山田氏)

●内助の功、夫は何も知らぬまま

ご主人は、まさか奥さんが遠隔治療していることなど、まったく知らない。

「……ご主人は、こういうのが嫌いなんです。俺には貼るな！ 電気は流すな！ さんざん言っていた。しかし、奥さんは内助の功で二週間がんばって、“AWG”を遠隔でかけつづけた。それしたら、みんなビックリ、あれえ。あぜん……。だって、前立腺ガンだったというMRI画像などの証拠がありますから。『前立腺ガン』とカルテにも書いてある。それから一か月半ほどで、ガンは消え失せた。奥さんは経過を詳しい手記にも残されています」(同)

山田氏も「遠隔って効くんだなあ」と改めて思った。

「波動」など大嫌いなご主人が「遠隔」で完治したのは、じつに皮肉でもある。

一七人全員の肩凝りを「遠隔」一撃完治

●名前を書いてもらうだけで

ここまで読んで信じられないひともいるだろう。以下は、私も目撃した現場だ。

山田氏は、五、六人の肩こり、こわばりなどを、遠隔治療でいっぺんに治してみせた。

その場にいた私もビックリ。一番驚いたのは、参加者たちが長年患っていた肩こりなどが、山田氏が触れも触りもしないで、「AWG」の遠隔治療のみで全員が一瞬で治ったことだ。

「……名古屋では、一七人をいっぺんに治したことがありますよ」と山田氏は笑う。

彼は、「遠隔治療は、兄弟など片方を施術すると、もう一人も治ることがある」という。

本人の特定は、名前をメモに書いてもらって読み込みセンサーに挟むだけ。

初めて体験する人は、マジックかなにかのように思うだろう。

一種のオカルトと思いつむ人がいても不思議ではない。

●同姓同名でも親族でも

「……同姓同名でも、面白いことに、その方に行くんですね。その人の意識が名前にこもる。あと、名古屋、大阪で実験しました。兄弟、家族はエーテル体（幽体）でつながっているらしい。」

わざと、弟さんの名刺を持ったお姉さんに前に出てもらって、腰のチェックをした。そしたら、『ごう』も痛くない！』

「次に、弟の名刺を外した。皆の前で『もう一回』と腰を触ったら、いたたー！ と椅子からずり落ちた。『あ、これ弟さんの波動もかかるんだ』。エーテル体って、家族間もいっしょに守っているようですね。親族が枕元に立つのも、同じ理由からでしょう」

山田氏によれば、父母や伯父、叔母などでも効果はある、という。

遠隔治療の実験は、近親血縁の思わぬつながりまで「証明」したのである。

●亡くなった親の名前でも可能

「……面白いのは、亡くなった親の名前を書いても『遠隔治療』はかかるんです。腰のチェックなど、亡くなった親の名前を書いてももらっても『効果』は出る」(同)

つまり、亡くなった親御さんの名前を入れたら、遠隔治療で息子さんが治った……。

親は亡くなった後も、子どものことを思い続ける。

「量子力学」は「靈魂」の存在すら認めている。霊は現世への思いを残したまま来世へ旅立つ。

その残余エネルギーが、遠隔治療でも働くのかもしれない。

量子「ヒモ理論」は対の量子がどれだけ離れていても同時変化する不可思議を証明している。

親子の情愛はまさに、これに似ているのかもしれない。

それは、男女の愛も同じだろう。

昔から似合いの男女は「赤い糸」で結ばれている、という。

センチメンタルでロマンティックな話だが、ありえるのかも……。

「愛」の絆は、もしかしたら量子エネルギーの絆かもしれないのだ。

「波動水」や「子機」はお求めやすい

●「波動水」は自宅で大量生産

さて――。

整体師の山田氏らが「AWG」治療と並行して使っている「波動水」とは、いったい何だろう。

山田氏は、これまで紹介した治癒例の患者さんすべてに用いている。

この「AWG」「波動水」を同時に処方しているのだ。

つまり、「AWG」の波動と「波動水」がペアで治療効果をあげている。

山田さんに「AWG」波動水って、どうやってつくるの？」とたずねたら、「これですよ」と

を写真1-4を示した。

「……『波動水』製造マットに市販のミネラルウォーターを置きます。そして、製造マットがない場合は、ペットボトルにパッドを貼って波動を送っています」

■「波動水」は自宅で大量に作れる



写真 1-4

“AWG”の機械を購入した方は、わざわざ「波動水」を購入しなくても、自分で大量生産できるのだ。人間は、日ごろ飲用する水の質で、体質は決定的に変わってくる。

機能水の効能を解説するまでもない。もはや生命の常識だ。

人体の七割は水である。良い水を飲めば、良い体質となる。

“AWG”パッドから送られた波動エネルギーは、まちががなく水のポテンシャルを向上させている。そして、水は「波動」を記憶している。

その波動エネルギーと、外部から施術する“AWG”波動が体内でシンクロして、相乗効果を上げているのだろう。

“AWG”で病気の改善を願うのは当然であるが、万能ではない。

一人ひとりのこれまでの思考パターン、生活習慣を振り返り、その人にとっての様々な気づき、学びが大切である。

“AWG”は人生全般を好転させて行くうえでも役立つそうだ。

“AWG”は奥が深いので、より多く学ぶ場が必要である。

